

地方創生関係交付金(新しい地方経済・生活環境創生交付金) 効果検証

資料3

地方創生に向け地方公共団体の自主的・主体的な取組みを支援する内閣府所管の交付金(旧:地方創生推進交付金)を活用して実施した各事業の令和7年度取組結果一覧です。

【地方創生推進タイプ】

No.	事業名(上段)	事業概要					事業期間	総事業費	R7事業費
1	周年事業をきっかけとした若年層による関係人口の創出	第3次燕市総合計画のスタートの年である令和5年は「つばめ若者会議」が設立10周年、「燕市PR大使」が就任10周年、「燕市産業史料館」が開館50周年と当市の各種取組が記念となる節目の年でもある。これらを契機と捉え、当市の魅力的な地域資源を広く全国に向けて発信するなどの事業に取組む。					R5～7	118,408千円	31,303千円
	重要業績評価指標(KPI)	基準値	R5	R6	R7	目標値	関連する総合計画上の主な事業		
	観光客入込客数	500,183人 (R3年度)	1,105,820人	1,228,199人	1,288,384人	800,183人 (R7年度)	・つばめ移住・定住促進事業 (資料2-14ページ参照)【地域振興課】 ・つばめ若者会議事業 (資料2-22ページ参照)【地域振興課】 ・文化会館自主事業 (資料2-18ページ参照)【社会教育課】		
	移住支援制度を活用した県外からの移住者数 (累計)	158人 (R3年度)	253人 (対R4年度+35人)	424人	469人	308人 (R7年度)			
	本市出身の首都圏在住大学生等交流事業 「つばめいと」会員数	804人 (R3年度)	796人	785人	784人	864人 (R7年度)			
	全国規模のスポーツ大会への出場者数	80人 (R3年度)	91人	150人	95人	140人 (R7年度)			
事業実施の成果・効果									
自然観光の拠点施設である道の駅国上の来館者数が好調となったほか、産業史料館では、趣向を凝らした企画展の開催等により来館者が増加した。自然とものづくり双方の魅力を伝える産業観光ナビゲーターによる観光案内も継続して実施しており、観光客入込客数増加に寄与していると考え。今後、産業史料館に新たに整備したミュージアムショップでの企画展関連商品の販売や、デジタル機材を活用したワークショップとものづくり体験等により入館者の増加を図り、更なる観光客入込客数増につなげていく。一方、つばめいと会員数は、新規加入よりも卒業による脱退が上回っていることで会員数が減少している。また、トップアスリートを講師に招いたゆめみらいスポーツ教室の実施により、全国大会への出場者数が近年増加傾向にあったものの、R7年度は団体競技の全国大会出場が少なかったため、出場者数が減少した。									

No.	事業名(上段)	事業概要					事業期間	総事業費	R7事業費
2	燕ならではの「人材育成と雇用創出の好循環」推進プロジェクト	「人材育成と雇用創出の好循環」推進プロジェクトに取り組み、地元就職やUターン就職、仕事の定着につなげる。また、若者と市内企業との接点を構築するとともに、若者が働きたいと思う仕事や職場の創出に取り組むことで、若者の転入者数の増加に繋げ、市内企業の人材確保及び目標人口の達成を目指す。					R6～8	80,995千円	23,874千円
	重要業績評価指標(KPI)	基準値	R6	R7	R8	目標値	関連する総合計画上の主な事業		
	地域へのUIターン数(累計) (移住支援制度を活用した県外からの移住者数)	253人 (R5年度)	424人	469人		360人 (R8年度)	・STEAM教育推進事業 (資料2-8ページ参照)【学校教育課】 ・つばめJOBサポート事業 (資料2-5ページ参照)【商工振興課】		
	24歳以下の有効求人倍率(巻公共職業安定所管内)	3.89 (R5年度)	4.42 (R7.3月時点)	5.73 (R8.3月時点)		3.47 (R8年度)			
	従業員4人以下の事業所における新規学卒(高校卒)就職者の就職後3年以内離職率(新潟労働局管内)	46.8% (R5年度)	56.0%	44.7%		31.8% (R8年度)			
事業実施の成果・効果									
移住を検討している人に燕の魅力を伝えられるよう、オンライン移住相談やイベント出展等を継続して実施したことで、移住者の増加に繋がった。一方、企業の人材不足が続いており、有効求人倍率は高い水準で推移している。また、離職率に関しては、前年度より下がったものの、売り手市場となっていることも影響して高い傾向となっている。今後、燕の企業が魅力的な職場と感じてもらえるよう、企業の働きやすい職場環境を整備する取組を支援していく。									

No.	事業名(上段)	事業概要					事業期間	総事業費	R7事業費
3	「食」がつなぐ観光誘客促進・消費拡大プロジェクト	燕市の食文化を核としたソウルフードプロモーションや道の駅SORAIRO国上を拠点としたイベント開催により観光誘客・観光消費の拡大を図るとともに、高品質米や園芸作物の生産支援、先進技術導入、首都圏向け販促強化、農産物の消費拡大を目指す。					R7～9	133,593千円	41,164千円
	重要業績評価指標(KPI)	基準値	R7	R8	R9	目標値	関連する総合計画上の主な事業		
	リニューアル後の燕市観光協会HPへのアクセス数	-	24,649回 (R8.2.11～)			600,000回 (R9年度)	・燕ソウルフード観光プロモーション事業 (資料2-25ページ参照)【観光振興課】 ・燕お土産品グランプリ事業 (資料2-25ページ参照)【観光振興課】 ・農産物消費拡大事業 (資料2-6ページ参照)【農政課】		
	道の駅SORAIRO国上の商品・飲食売上高	378,460千円 (R5年度)	409,151千円			420,460千円 (R9年度)			
	農産物の販路拡大取組件数	4件 (R6年度)	4件 (R7年度)			10件 (R9年度)			
	主要観光施設における売上金額	40,434千円 (R6年度)	1,147,848千円 (R7年度)			186,924千円 (R9年度)			
事業実施の成果・効果									
観光協会HPのリニューアルを行い、旅行プランやイベントカレンダーの掲載を始めたほか、視察等申込、アクセス解析機能を新たに追加し、マーケティングツールとしての強化を図った。また、燕お土産品グランプリ、燕背脂ラーメンシール祭りなどを通じて、重要な観光資源の一つである食のPRと消費拡大を図ったほか、道の駅SORAIRO国上での収穫祭イベント、食べて応援キャンペーン、つばめトマトPR動画などを通じて農産物の消費拡大を図った。									

No.	事業名(上段)	事業概要					事業期間	総事業費	R7事業費
4	「若者・女性にも選ばれる企業」拡大・創出事業	人口減少が大きな課題となる中、若者・女性からイキイキと働ける場として市内企業に目を向けてもらうため、男性の育児休業取得推進や「つばめ子育て応援企業」認定を通じた働きやすい環境整備を支援することで、若者・女性が「働きたいまち」と感じられるような魅力ある地域づくりを進める。					R7～9	76,168千円	28,536千円
	重要業績評価指標(KPI)	基準値	R7	R8	R9	目標値	関連する総合計画上の主な事業		
	20-40代の職業理由による社会動態 (直近4か年移動平均)	△18.50人 (R6.10月時点)	△17.25人 (R7.10月時点)			△14.75人 (R9.10月時点)	・つばめ子育て応援企業サポート事業 (資料2-23ページ参照)【地域振興課】 ・働きやすい職場環境整備支援事業 (資料2-5ページ参照)【商工振興課】		
	つばめ子育て応援企業認定数	126社 (R6年度)	175社			156社 (R9年度)			
	就業制度等整備支援企業数	10社 (R6年度)	13社			40社 (R9年度)			
	産業史料館入館者数	21,587人 (R6年度)	27,919人			28,067人 (R9年度)			
	事業実施の成果・効果								
若者や女性の市内定着を促進するため、市内企業の工場等遮熱断熱対策、ワーク・ライフ・バランス向上のための就業制度整備など、働きやすさの改善をハード・ソフト両面で総合的に支援した。また、「つばめ子育て応援企業」PRサイトを構築したほか、働きやすさの改善に向けた企業向けセミナーを開催するなど、多面的な取組みを行ったこともあり、子育て応援企業認定数を大幅に増やすことができた。									

No.	事業名(上段)	事業概要					事業期間	総事業費	R7事業費
5	まちなか活性化を加速！公共施設を活用した賑わい貢献事業	中心市街地の活性化を目指し、商店街における若者主体の官民協働プロジェクトを推進するほか、市街地整備にも並行して取り組んでいく。さらに、居住誘導区域の公共施設を有効活用し、まちなかの魅力向上を図ることで居住誘導区域への居住意向を高め、持続可能なまちづくりを目指す。					R7～9	1,134,385千円	958,629千円
	重要業績評価指標(KPI)	基準値	R7	R8	R9	目標値	関連する総合計画上の主な事業		
	居住誘導区域内戸建住宅新築数	148戸 (R6年度)	132戸			163戸 (R9年度)	・つばめ若者会議事業 (資料2-22ページ参照)【地域振興課】 ・B＆G海洋センター改築事業 (資料2-17ページ参照)【社会教育課】		
	推計人口(社人研推計値と実績値の差分)	-	△211人			+254人 (R9年度)			
	商店街新規出店数(累計)	3件 (R6年度)	5件 (R7年度)			7件 (R9年度)			
	学習スペース利用者数	-	1,934人 (R7.12.15～)			8,800人 (R9年度)			
	市営プール利用者数	30,000人 (R6年度)	27,419人			67,000人 (R9年度)			
	事業実施の成果・効果								
中心市街地の活性化と居住機能を向上させるため、商店街のにぎわい創出事業や空き家対策事業を行ったほか、旧燕庁舎を活用し、学生のニーズに基づいた学習室整備を行った。また、市民の健康増進を図るほか、小学校のプール授業の受け皿として活用するため、B＆G海洋センターの改築工事に着手した。									

【地方創生拠点整備タイプ】

No.	事業名(上段)	事業概要					事業期間	総事業費	R7事業費 (事故繰越分)
6	「子育てするなら燕市で」子どもたちの笑顔あふれる全天候型子ども遊戯施設整備事業	天候に左右されることなく思い切り遊ぶことのできる施設を建設し、市民の子育て満足度を向上させるとともに、「子育てするなら燕市で」のシンボルとして本市の子育て施策など環境を市内外に発信することで、移住・定住を呼び込む。					R5～7	1,808,685千円	221,655千円
	重要業績評価指標(KPI)	基準値	R5	R6	R7	目標値	関連する総合計画上の主な事業		
	本市の子育て施策(移住家族支援事業・新婚世帯移住者家賃補助事業)を利用して移住した子育て世代の人数	207人 (R3年度)	163人	187人	158人	267人 【R9年度】	・屋内こども遊戯施設(ハレラテつばめ)建設事業 (資料2-9ページ参照)【こども未来課】		
	本市の子育て支援に対して満足と答えた人の割合	48.40%	68.8%	76.0%	70.10%	51.25% 【R9年度】			
	施設の利用者数	-	-	-	81,192人	250,000人 【R9年度】			
	燕市子育て支援アプリ登録者数(累計)	-	2,779人	3,313人	3,696人	3,896人 【R9年度】			
	事業実施の成果・効果								
屋内子ども遊戯施設「うさぎもちハレラテつばめ」として令和7年9月にグランドオープンした。指定管理者やネーミングライツパートナー、周辺施設との連携のもと、創意工夫を行いながら運営を行っており、想定を上回る利用者数となっている。今後も「子育てするなら燕市で」のシンボルとして、本市の充実した子育て支援制度と併せて市内外に発信することで、更なる子育て世帯の移住・定住に繋げていく。									

【デジタル実装タイプ】

No.	事業名(上段)	事業概要					事業期間	R7事業費
7	つばめスマート市議会実現事業	新たに会議運営システムを導入し、議会映像配信システムやマイク音声・カメラ映像制御システムと連携させることで、議場及び委員会室のデジタル化・スマート市議会実現を図る。文字や説明資料・映像などを配信内容に付加できるようにするとともに、鮮明な映像・音声配信により、障がいの有無や年齢等に左右されず誰もが認識しやすく、どこからでも議会情報にアクセスすることができる環境を整え、市民の議会への関心度を向上させる。					R7	128,683千円
	重要業績評価指標(KPI)	基準値	R7	R8	R9	目標値	関連する総合計画上の主な事業	
	議会中継システムの視聴回数	1,200回 (R5年度)	1,849回			11,100回 【R9年度】	-	
	議会傍聴者数	-	139人			360人 【R9年度】		
	議会中継インターネット配信における市議会に対する閲覧者の満足度	-	88.9%			90% 【R9年度】		
	本会議傍聴者の満足度	-	83.3%			90% 【R9年度】		
	事業実施の成果・効果							
会議運営システムの導入により、議会中継における文字や資料の付加、映像・音声の質の向上、議場・委員会室における資料投影を実現したことで、議会運営の効率化・デジタル化、アクセシビリティの強化を図った。議会広報での周知や市役所ロビーでの議会中継も併せて実施し、市民の議会に対する関心度の向上を図った。								